

第19回伊勢・三河湾の環境と漁業を考える
「生物からのシグナルをこれからの漁業・環境管理に活かす」

日時：2024年11月30日（土）13:00～17:30（受付12:30～）

会場：愛知県西三河総合庁舎 10階大会議室（愛知県岡崎市明大寺本町1-4）

コンピーナー：和久光靖（愛知水試漁生研）・柘植朝太郎（愛知水試）・日比野 学（愛知県水産課）・岡田 誠・岩出将英・高崎有美子（三重水研）

共催：愛知県水産試験場，三重県水産研究所

後援：愛知県漁業協同組合連合会，三重県漁業協同組合連合会

挨拶 木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会長） 13:00～13:05
趣旨説明 日比野 学（愛知県水産課） 13:05～13:15

【基調講演】

「東京湾における海洋環境の変化と漁場での新しい試みーアサリとブルーカーボンと名刺！？」

石井光廣（千葉水研セ東京湾研） 13:15～14:00

【事例発表】

座長 川村耕平（愛知水試漁生研）

1 環境シグナルとしての植物プランクトンの変化 14:00～14:30

柘植朝太郎（愛知水試）・渡辺 剛（水産機構資源研）

2 アサリ？ハマグリ？三重県の二枚貝資源は今 14:30～15:00

高崎有美子・岡田 誠（三重水研）

（休憩）

座長 岩出将英（三重水研）

3 遺伝子マーカーによるアサリ飢餓検出ツールの開発 15:10～15:40

井上誠章（水産機構技術研）・佐野菜採・伯耆匠二（三重大学生資）

4 増えたら減る？アサリの密度依存的な応答と資源管理 15:40～16:10

進藤 蒼（愛知水試漁生研）・日比野 学（愛知県水産課）

5 小型底びき網漁業における漁獲対象種の変化が漁業経営に及ぼす影響 16:10～16:40

神山龍太郎（水産機構資源研）・荒木克哉（愛知水試漁生研）・松井隆宏（海洋大）・曾根亮太（愛知水産産業振興基金）

【総合討論】

16:40～17:20

進行 和久光靖（愛知水試漁生研）・柘植朝太郎（愛知水試）

開催趣旨：近年，温暖化や気象・海象イベントが漁場環境や生物相に与える影響が各地で報告されている。特に伊勢・三河湾では，栄養塩濃度やクロロフィルa量の長期的な減少が確認されるなど，漁場環境の変化が著しい。現在，これらに対応する改善への取組が関係機関により実施されているが，漁業現場としても現況に適応しつつ，また漁場環境改善の効果を確実に漁業生産につなげられるよう取り組んでいく必要がある。そのためには，様々なタイムスケールで発信される環境や生物からのシグナルを的確に捉え，解析することがこれまでも増して重要となる。今回の研究集会では，沿岸環境や生物の変化をシグナルとして捉えた調査例を紹介するとともに，持続的な漁業を実現するためのシグナルの解析方法，漁業管理や環境管理等への活用について議論を深める。